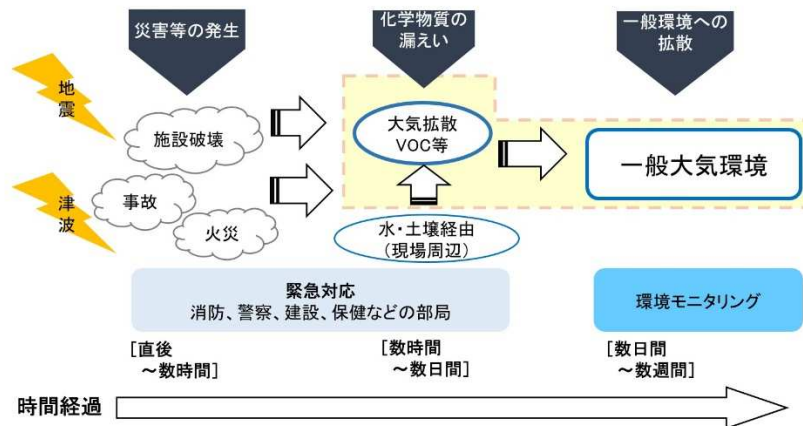


災害等の発生時における環境モニタリング手法に関する研究

1 事業の概要

災害等の発生により化学物質（揮発性有機化合物）が漏えいした場合、住民の安全・安心を確保するには、平常時の濃度に戻るまでの間、できるだけ多くの地点で大気環境モニタリングを行うことが必要です。

しかし、発災後は通常のサンプリング方法の機材や技術者等の確保が難しいことが予測されるため、本研究では、専用の機材や技術を必要とせず、多種類の化学物質に対応する簡易なサンプリング方法によるモニタリング手法の構築を目的としています。



2 令和2年度の実施状況

県内排出量と毒性を考慮して優先的に取り組むこととした化学物質（ベンゼン等 14 物質）について、平常時の濃度を把握するため、水島コンビナート近郊及びコンビナートの影響が比較的少ないと考えられる地域 4 か所（既存環境大気測定局等）において、通常のサンプリング方法（キャニスター）で調査しました。

また、発災後を想定した簡易なサンプリング方法については、ポンプ等の機材が不要で、測定地点に置くだけでサンプリングが可能な器具（パッシブサンプラー）を用いた調査を試行しました。その結果、トルエンやキシレン等 6 物質で通常法と良好な相関が得られることがわかりました。

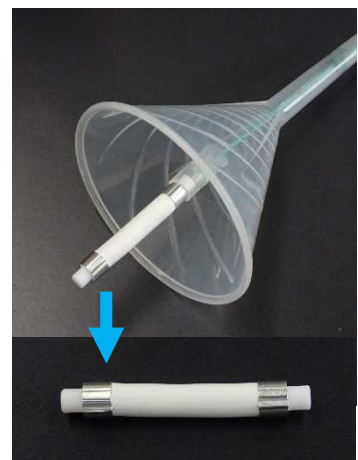
引き続き、平常時のデータ収集と簡易法の条件検討を行っていく予定です。



通常法（キャニスター）



簡易法（パッシブサンプラー）



簡易法の拡大図

担当部署

環境保健センター 環境科学部 大気科